

暖冬の影響大きく、特に非製造業で悪影響が目立つ

12月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

暖冬の影響は様々な業種で見られ、特に非製造業での悪影響が目立つ。さらに、中国の景気減速懸念による先行き不安もあり、厳しい状況は変わらず。総じて、歳末需要も盛り上がりには欠け、静かな年末となった。

<div>製造業</div>	食料品		パンは暖冬で外出の機会が増え例年並みに推移、中でも個性あるオリジナルベーカリーが好調である。菓子は売上増加傾向で、ネット販売等も好調である。製麺はお歳暮・年越しそば需要がやや減少している。酒造は普通酒が落ち込む。
	繊維・同製品		桐生織物は今年の梅春用の婦人服地、成人式等の和装織物ともに苦戦している。伊勢崎織物は先行き不透明な状況が続き、厳しい状況である。繊維製品は暖冬の影響により、年末バーゲンの売れ行きが悪化している。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは回復傾向にある住宅着工に期待するも、北関東地域は厳しい状況が続く模様である。生コンは吾妻郡を除き全県的に対前年を大幅に割り込む。砕石は東毛・渋川地域は好転だが全体的には悪化傾向である。
	機械・金属		太田機械金属や前橋金属団地では鉄骨加工や引き続き富士重工関連が好調である。一方、中国経済減速懸念による先行き不安や国内生産量の減少傾向、賃金アップ要請によるコスト増加、労働力の維持・確保など課題も多い。
	その他の製造業		木材は原料不足・仕入単価上昇に苦慮するも、一部商品の在庫増の負担感がある。紙加工品は全体的に厳しい状況だが、一部食品・自動車関連等は好調を維持している。印刷は取引先との継続取引を心配する声が聞こえる。
<div>非製造業</div>	卸売業		リサイクル機械設備が中国の経済状況の悪化に伴い需要が激減、今後を不安視している。農産物卸は年末商品の野菜は全体的に安値、果実は前年並みである。水産物卸は売上高が増加するも利益は減少している。
	小売業		中古自動車は出品台数はますますだが成約率は若干減少している。燃料小売は暖冬により灯油等の需要が減少している。生花小売は年末商材の松や千両等が不作で割高のため苦戦している。商店街は暖冬により冬物季節商品の動きが低調に推移している。
	サービス業		温泉旅館は群馬プレミアム宿泊券等の利用が多く入込は増加したが、雪不足によりリゾートホテルやペンションなどは若干苦戦している。不動産取引は藤岡地域では住宅用地・事業用地ともに引き合いは殆どない状況である。
	建設業		防水工事は大手企業が多少上向きの様子だが、総体的にはまだまだの状況である。電気工事は新卒採用に取り組む企業が散見される。塗装看板は職人単価の落ち着きや突貫工事の減少等により収益が安定している。鉄構は見積もり物件が減少している。
	運輸業		暖冬で冬物の出荷は減少したが、自動車・野菜は輸送量が増加している。継続する燃料価格の下落により若干の収益・資金繰りの好転がみられる。小口輸送は医薬品が安定したが、食品や自動車部品関連が悪化傾向で売上は減少している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 109.8(前月比▲0.1%)「県統計課・11月」
- 販売電力量 113,029万KWh(前年同月比▲4.3%)「東電群馬総社・11月」
- 住宅着工戸数 1,143戸(前年同月比▲2.1%)「県建築住宅課・11月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.86倍・有効1.28倍「群馬労働局・11月」
 - 大型小売店販売額 193億円(前年同月比+0.8%)「経済産業省・11月」
 - 消費者物価指数(全国) 103.5(前年同月比+0.3%)「総務省統計局・11月」
- (鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)